



こころ

芳賀町立芳賀東小学校



No.11 令和6年1月10日

みんなが「幸せ」な学校に

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。冬休みの間、子どもたちは幸い大きな事故やけがもなく、楽しく過ごせたようです。ご家庭での、きめ細かなご指導に感謝いたします。

さて、ご家庭では、新年をどのように迎えられたでしょうか。どのご家庭も「今年も幸せな年でありますように」と願っていることと思っています。当然、学校は子どもたちが幸せになれる場所でなければなりません。始業式では、「幸せ」とは何か子どもたちと考えるために、次のような話をしました。



登校の様子

新しい年の始まりに、「幸せ」について考えたいと思います。「おいしいものを食べたとき」「好きなゲームを買ってもらったとき」などは幸せって感じるのかな。反対に、「テストの点数がよくなかったとき」「ゲームばかりやっていて怒られたとき」などは不幸せって感じるのかな。

一人一人、幸せと感ずることは違います。また、そのときそのときで幸せと感ずったり、不幸せと感ずったりします。これは英語で言うところの「ハッピー、ハピネス」。みんな聞いたことがあるよね。これは「そのときの気分によって左右され、長続きしないもの」だそうです。

では、いつも幸せを感ずるためにはどうしたらよいのでしょうか。「ウェルビーイング」って、聞いたことがある人はいるかな。そのまま日本語にすれば「元気で、周りの人ともうまく関わり、満足して生きている状態」つまり「幸せに生きている状態」を言います。みんな「ウェルビーイング」「幸せ」にならなくてはならないし、学校はそのためにあります。

そんな「幸せを作り出す方法」はないのか、調べてみました。そこで、こんな本を見つけました。「99%の小学生は気づいていない？ウェルビーイングの魔法」という本です。この本に書いてあることを紹介します。幸せな人は次の4つの心をもっているそうです。

- 1 「やってみようの心」・・・失敗しても大丈夫、とにかくやってみよう、と思う気持ち
 - ・自分にはいいところがある。そのいいところを伸ばす自分はこんなことを学び、成長してきた。だから、自分が好きだし、みんなも好きでいてくれる。」と思うことで生まれてくる。
- 2 「ありがとうの心」・・・感謝する気持ち、自分にも、みんなにも
 - ・周りの人が自分を大切に思ってくれている。人生で感謝することがたくさんあるなあ。私も誰かの喜ぶ顔が見たいなあ。親切にしたいなあ。」と思うことで育ってくる。
- 3 「なんとかなるの心」・・・やることをやれば後は「何とかなる」と思う気持ち
 - ・「きっと大丈夫」と信じる心や、気持ちを切りかえて失敗や不安な気持ちを引きずらないことが大切。「どうせ、でも、だって」のようなネガティブな言葉を言わずに、見方を変えて、ポジティブに考えていくことで育ってくる。
- 4 「ありのままの心」・・・自分を周りの人と比べない。自分らしく生きると思う気持ち
 - ・周りの人の言うことばかりを気にしないで、自分の頭や心で自分のやりたいことを決めることを心がける。自分や他の人のいいところを認めることや自分のありのままを受け入れてもらえると思えることも大切。

この4つの心を身に付けてみんな一人一人が「ウェルビーイング」「幸せ」な気持ちを高めてほしいです。みんなが「ウェルビーイング」「幸せ」になれば、芳賀東小学校は「ウェルビーイング」「幸せ」な学校になるはずですよ。

「ウェルビーイング」とは、最近よく聞く言葉です。子どもたちのウェルビーイングの実現のために一人一人の個性やニーズに応えるような授業や教育活動、環境づくりを工夫していきます。今年もよろしくお願いたします。



始業式の様子・元気よく校歌を歌う